

# 水土里の体験～稲作体験を通しての学校交流～

中学校で同じ学校区になる町内2小学校の5年生全員を対象に、休耕田を活用し稲作体験を通して農業の大切さを学ぶと共に学校交流を深めることを目的に「田んぼの学校2011」を行った。

内容として、8アール程の水田に田植え作業と稲刈り作業の体験学習を行い、時間的な制約のある中で、子供達は体験学習を通して独自に稲の観察を行うなど意欲的に活動している。また、収穫したお米については、各学校とも福祉活動等に活用されており地域住民の方々より好評を得ている。

町内1小学校では、JAこまち農協青年部が主体となり近代的な農法（無人ヘリ防除等）の導入と食育及び地元保全会による生き物調査等を行うなど、5年生の子供達に好評を得ている。また、収穫感謝祭に保護者の方々も参加し、各農業団体の活動を理解してもらえた会であった。

「食料・環境・ふるさとを考える女性の会」と題して開催され、管内の女性の方々を対象に、農業水利施設見学と農地・水・環境向上対策の活動報告及び今後の農業政策を通して意見交換を行った。この中で、水土里ネットの役割を理解して頂くと共に「再認識した」との感想等があったほか、「今後も継続して地域住民に対し広く水土里ネットの役割をPRする必要がある」との意見が出るなど、今後の活動に参考になる会であった。



活動体制	
実施主体	水土里ネットうご（羽後町土地改良区）
後援・連携	町内3小学校、秋田県雄勝地域振興局農林部、羽後町、JAこまち、雄勝共済
実施期間	6月2日～11月22日
参加者	町内3小学校5年生、組合員（非農家も含む）家庭の女性など271名
報道関連	秋田県のHP（美の国秋田）、JAこまち広報、雄勝共済広報等
活動実施年数	9年
連絡先	〒012-1131 雄勝郡羽後町西馬音内字中野177番地 羽後町土地改良区 TEL.0183-62-0741
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネットうご（藤原 周悦）					
○活動の目標及び達成率	目標	出前授業6小学校・ふるさとを考える女性の会の実施			
	達成率	50%			
○活動に対する評価	農作業体験を通して、食に関する関心度が高くなった。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	B	広報及び各農業団体と連携し、運動のPRを行っている
①役職員・組合員の参加	B	積極的に取り組む事で、活動を理解して頂いている	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	C	“田んぼの学校”で農作業体験等を行っている程度である	①他組織との連携構築	B	各農業団体等とも連携がとれており、一定の成果を得ている
2. 活動の意味性について			②地域住民等の理解	B	農地・水・環境保全の活動を通して、特に理解を得ている
①基本理念の設定	B	事業計画に明確に織り込んでいる	③施設管理・地域資源の保全強化	B	上記と同様である
②地域の歴史等の伝承	C	先人達の想いを伝えているが、子供達の反応が鈍い	④運動の地域づくりへの関わり	C	農地・水・環境保全の活動を通して、従来よりも関わりが多くなっている
③運動の先駆性	B	女性の会での意見を、当水土里ネットの運営に反映している	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	A	農地・水・環境保全の活動を通して、地域より評価を得ている
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	C	運動の内容を通して、地域の農業振興に貢献度は薄い
①運動の継続性	B	事業計画に織り込んでおり継続的に運動を展開している	5. 今後の課題等について ・創造運動の活動を通して、地域の方々に当水土里ネットに対する認知度が徐々に向上しました。今後の取り組みとして、身の丈にあった活動内容とし地域主導型で継続的に運動を展開していきたい。		
②運動の発展・拡大	B	先人達の想いを伝えているが、子供達の反応が鈍い			
③運動の計画性	B	学校関係とも連携をとっており、計画を持って実施している			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他